大藤小学校

「自ら考え，課題を解決できる児童の育成」
～つなぎ，学びあう少人数での学習集団づくりを通して～

Ⅰ　研究内容

1　研究内容と方法

（1）研究内容

・少人数や小集団における効果的学習方法（ICT の活用も含む）を取り入れた授業実践および授業公開の実施（一人一実践の取り組みを生かす）を行った。

・児童の実態把握（ＮＲＴ検査・Q-U・アンケート）と K-13 簡易法を用いた Q-U の結果分析とアタックシートを活用した集団づくりをめざした。

・学びを促す家庭学習環境づくりのために「ふじっこノート」の活用や友だちのノートの掲示などを行った。

・ICT を活用したカリキュラムづくりと学校や地域の良さや学習成果を外部へ発信する取組みを行った。

（2）研究方法

・全体研究会を中心に研究を行った。授業実践を核にして，職員の共通理解のもと積極的に実践に取り組んだ。

・職員間の情報交流を行い，ICT に関する理解を深め，ICT の活用力と実践力を高める取り組みを行った。

・授業改善について研究し，一人一実践を通して職員同士で学びあった。

・ＮＲＴ検査，QU，アンケートを使い児童の実態を把握し，それを様々な場面で生かす取り組みを行った。

（3）検証方法

・２回の学習アンケートと二回の Q-U での変化の様子を検証材料とした。

・授業実践での児童の変容，ノート等の記述も用いて検証に当たった。

2　研究実践

（1）理論研究

① ICT 活用力研修，edutab の使い方や接続の仕方等の研修会を行い，ICT 活用力を高めた。

②実践の発表を通して，活用場面の拡充を図った。

（2）実態調査

① NRT 検査の分析（５月）

各学年・各教科ごと，学年平均と全国平均を出し，今年度特に力を入れて指導すべき内容を明らかにすると共に，どのような手立てを講じていくのかを検討した。

②学習・生活アンケートの実施（５月・２月）

アンケートを５月と２月に実施した。５月の結果を受けて各クラスで取り組み，２月には，比較の分析を行い，成果の確認と今後の課題を探る資料とした。

③ K-13 法簡易版による Q-U 検査の分析（５月・１１月）

４月と 11 月に行った Q-U 検査の結果を受け，学年ごとに K-13 法簡易版を用いて分析を行った。全校のプロット図を作り，全校集団づくりの成果も分析した。

（3）授業実践

ア　研究授業

・第２学年　廣瀬　尚子教諭　国語　　「しかけカードのつくり方」
　　「おもちゃのつくり方」

イ　授業公開（一人一実践）

・第１学年　堀内　美紀教諭　国語　　「ずうっとずっとだいすきだよ」

・第３学年　　広瀬　沙希教諭　算数　　「分数」
・第４学年　　川野　和昭教諭　算数　　「小数のしくみ」
・第５学年　　荒井　祐貴教諭　算数　　「面積」
・あおぞら学級　有井　哲也教諭　算数　　「かけ算」

（４）日常的な取り組み

学年に応じた，系統的な学習規律を確認し，それを明記した「大藤小スタンダード」の徹底を図った。「自主学習ノート」（ふじっこノート）による毎日の自主学習と毎週水曜日の「大藤プリント」に取組んだ。

Ⅱ　研究内容

1　成果

（成果）

・少人数のよさ（一人ひとりの目がとどきやすく，きめ細やかな指導が行いやすいこと）を意識して日々の授業実践をすることでさらによさを伸ばすことができた。
・２年生の研究授業では，一人ひとりを大切にしながら一人一台の iPad の使用，電子黒板による一人ひとりのノートの提示，教師の個に応じたアドバイスなどのすばらしい姿を見ることができた。
・昨年度作成した ICT 活用表を参考に授業実践を行うことができた。
・edutab と TV 会議システムの活用の研修会を行い，もう一度，操作方法から新しい機能（edulog）の使い方などを学ぶことで昨年度よりスムーズに活用をすることができた。
・昨年度の課題であった外部への発信については，学校便りの活用，全校授業公開，ふるさと学習発表会，大藤芸能交流発表会，新聞の取材等を通して積極的に発信することができた。
・「ふるさと山梨」では，学習会を行い，こだわりをもたせながらたくさんの作品を出品し，「学校賞」をいただくことができた。
・NRT 検査を全職員で分析をした。各学年の課題を把握し，授業改善に努め，工夫して指導することができた。Q-U に関しては，K-13 法による分析を行い，アタックシートを作成し，気になる児童への支援を考え，集団づくりに生かした。今年度は，いつ，どこで，なにを行うのかを具体的に示すようにした。「大藤小の児童は全員で伸ばす」という考え方で児童理解に努め，統一歩調で児童の指導・助言にあたったことで，児童一人ひとりが認められる集団づくりや個性が生かされるような授業づくりにつなげることができた。また，全校プロット図を作成し，学校全体ではどうなのかなど全校集団づくりの成果を分析することができた。また，それをもとに授業や学級経営に生かすことができた。
・家庭学習ノートの名称と内容を全校で統一した。そのことにより児童の学びの質（児童のノート内容），量（アンケート）ともに向上が見られた。
・一階の廊下の前と各教室にノートを掲示することで，児童に参考となるノートを示し，意欲の向上につなげることができた。担任の評価，励まし，アドバイスに加えて，校長先生に見ていただくことでさらに児童の意欲が高まった。
・昨年度学習プリント集を作成した。今年度は，一年間を通して毎週水曜日の朝学習の時間に使用した。プリントを綴ることで可視化を図った。それにより児童の学びを促すことができた。

（課題）

・今後も，折を見て学校や地域の良さを積極的に外部へ発信することを続けて行く必要がある。地域人材の発掘，外部講師の活用などを引き続き行うことや新聞，TV などを通じての発信も考えていきたい。
・中学校の「学習スタンバイ」との関連づけ，中学校との授業の始まり，終わりのあいさつ等の統一，保育園との連携などを今後も深めていく必要がある。
・家庭学習の充実については，家庭学習の個人差が大きいので今後対策を講じていく必要がある。

Ⅲ　成果物

・研究授業及び公開授業の指導案
・NRT 検査の分析結果（２～６学年）
・全校プロット図（２回分）
・学習・生活アンケートデータ（２回実施）
・Ｑ－Ｕ検査の分析結果，アタックシート
・ICT 活用表

（研究主任　川野　和昭）